



第3回目の読み聞かせ ～ お世話になりました ～



22日（木）に、本年度第3回目の読み聞かせの時間を設けました。今回は、保護者の元村さん、高木さん、そして地域の広瀬さんにお世話になりました。子供たちは本を読んでもらうのが大好きです。どの学年も、ほとんどの子供たちが、感心するくらいじっくりお話の世界に入り込んでいます。映像での情報のインプットが当たり前になっている現代。それも有効な場合が多いのですが、情操や想像力の育成、発想する力、創造する力の育成など、AIにはできないことも多くあります。そういった意味では、読書、読み聞かせは欠かせないものだと思います。とはいえ、私も、もっと我が子に読んで聞かせていれば・・・と後悔することしきりです。三名の皆様、ありがとうございました！（読み聞かせボランティアに興味がある方は、ぜひご連絡ください）



1・2年生は元村さん



3・4年生は高木さん



5・6年生は広瀬さん

行ってきました！ 新作狂言「熊本三獣士」鑑賞

25日（日）は、天気にも恵まれ、昼間は少し汗ばむくらいの陽気でした。3時間の授業が終わってからお弁当を食べ、いざ出発の準備。子供たちはバスに乗るとウキウキした様子でした。舞台が始まると、そこは古典芸能の世界。初めて狂言を鑑賞する子供たちがほとんどだと思われましたので、少し心配もしていました。台詞も普段聞き慣れている日本語とは違いますので大丈夫かな・・・と。でも、今子供たちが学習している（5・6年生は過去に学習した）鼻ぐり井手の説明や、「馬場楠」という地名が何度も出てくるのを聞いて、子供たちの顔がパツとかがやくのが見えました（後ろからですけれど分かりました！）。舞台の中に、自分たちの世界を共有できた貴重な瞬間だったと思いました。また、後半、古典狂言「梟（ふくろう）山伏」も見ましたが、現代にも通じるコミカルかつユーモラスな動きや声に子供たちが笑って反応していたのも新鮮でした。やはり、な、と実感しました。（終演後真似している子も・・・）また、今回の舞台には、熊本市の小中学生4人が演者として参加していました。最後、演者紹介のとき、その4人に将来の夢をお尋ねになったのですが、一人の男の子が「狂言師」と答えたのには驚きました。後で聞いたところによると、このプロジェクトに関わったことがきっかけで決心し、稽古にも通っているそうです。一生の出会いはどこにあるか分かりませんね・・・。古典をこの後の世代にも引き継いでいくには、後継者が必要です。スピレーションを得て、将来の道を選ぶ子が出てくるかもしれませんね！



9月の「ふるさとくまさんデー」は人吉・球磨から！

22日（木）は、9月の「ふるさとくまさんデー」でした。人吉・球磨から届いたメニューは、「芋栗ごはん、牛乳、つぼん汁、塩さば、五分漬けあえ」でした。栗の生産量が全国2位の熊本県。人吉・球磨地方は有数の産地です。なかでも有名なのが、山江村の特産物「やまえ栗」です。本格的に栽培されるようになってから約50年だそうですが、盆地特有の朝夕の寒暖の差と、生産者の技術向上の努力がおいしい栗を作り出しています。「つぼん汁」・・・聞き慣れない料理名ですよね。これは、鶏肉、豆腐、野菜、芋などたくさんの材料をいりこだして煮て、醤油で味付けをした人吉地方の郷土料理です。秋の収穫時期に作る、神様に供えるための料理で、蓋付きの深い壺のような椀に入れて出されていたためこの名前が付いたそうです。「塩さば」についてですが、人吉・球磨地方は海から離れているため、鮎やヤマメなどの川魚がよく食べられていました。海の魚は新鮮なものが手に入らないので、塩を使って保存した塩さばや塩いわしなどがよく食べられていたそうです。今月も小旅行気分を味わいながらおいしくいただきました。食文化は奥が深いですね。

